第３回天理市総合教育会議　議事録

開催日時	平成 29 年３月２日（木）　　15 時 00 分～17 時 15 分
開催場所	天理市役所５階　５３１会議室
出 席 者	並河市長、森継教育長、田中教育委員会委員、中嶋同委員、名倉同委員、前川同委員
欠 席 者	なし
事 務 局	藤井副市長、山中公室長、城内公室理事、加藤総合政策課長、三喜田同課係長、桑原同課主査、巽同課主査
事務局側	仲谷教育委員会事務局長、岡本同局次長、吉岡学校教育課長、綿谷同課指導主事、北林同課指導主事、笹尾同課指導主事、西岡教育総務課長、土田同課係長、金守生涯学習課長、吉本児童福祉課長補佐、榊同課係長

◇会議次第

〇開会

〇市長挨拶

〇案件

１．天理市いじめ防止基本方針（案）にかかるパブリックコメントの結果報告

２．総合教育会議における教育大綱の進捗管理について

◇資料

資料番号１．席次表

資料番号２．パブリックコメントの概要及び市の考え方

資料番号３．天理市いじめ防止基本方針　新旧対照表

資料番号４．天理市いじめ防止基本方針（案）
＜パブリックコメント時＞

資料番号５．平成２９年３月総合教育会議
教育大綱重点テーマに関する報告書

資料番号６．追加資料

◇司会
＜事務局　三喜田＞
　本日は、お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。只今より第３回天理市総合教育会議を開催させていただきます。まず、並河市長より一言ご挨拶お願いいたします。

＜並河市長＞
　改めましてこんにちは。本日は第３回の天理市総合教育会議ということで、委員のみなさま方には大変ご多忙なところご参集いただきまして、誠にありがとうございます。いよいよ 29 年度に入っていく前の段階で今日はこれまで会議でお話させていただいたことを確認して来年度に向かっていきたいなと思います。また、いじめ防止基本方針の関係で、昨日市議会で「施政方針」を述べさせていただきました。今回の施政方針では子育て関係を圧倒的に多く述べています。つい先ほども子ども食堂の会議をやっていましたが、非常に多くのところで、子どもあるいは子育て世代（親御さん）の孤立、そして孤立から経済的困窮だけでなく精神的な部分から、なかなかお子さんのところまで手が回らない現状があり、その親御さん自身がかつてご自分の親御さんとの間であまりきちんとした関係を築けていないのではないかということがうかがえました。
　また、柳本幼稚園を急きょ移動させることが年末にあった際、柳本小学校の親御さんの方から、学力が低下している中で（幼稚園を小学校に移転するのはどうか）という趣旨の発言が出ました。これについて「施政方針」で申し上げたポイントを申し上げると、学力テストの点数だけがすべての指標ではないものの、ただ真摯に受け止めないといけない部分として、県の平均とくらべて正答率が低いという、差は目を背けるわけにはいきません。ただ、児童の全員ができていないというわけではなく、放課後の学習習慣がほぼないに近いというお子さんが一定数の割合としてあって、その皆さんが試験を受けて、本来はもう少し頑張れば解けるであろうところを途中で解くのをやめてしまって、そういった部分で全体の平均点を下げてしまっているということで、そのあたりもしっかり見ていく必要があり、放課後の学習習慣も含めて、何をやっていくべきかという問いかけをさせていただきたいというわけでございます。ぜひ本日は委員の皆様の率直な意見をいただきながら、来年度の取組みに向かっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

＜事務局　三喜田＞
　ありがとうございました。それでは案件に入ります前に、資料の確認をさせていただきたいと思います。まずは本日の次第、そして資料番号１が席次表、資料番号２が、パブリックコメントの概要及び市の考え方、資料番号３が天理市いじめ防止基本方針新旧対照表（案）、資料番号４が天理市いじめ防止基本方針新旧対照表（案）＜パブリックコメント時＞、資料番号５平成 29 年３月総合教育会議教育大綱重点テーマに関する報

告書の冊子、資料番号６は追加資料となっています。そして本日、「様々な力　質問内容」と書かれた資料を追加資料としてお配りさせていただいています。以上資料に過不足はございませんでしょうか。なければ、案件に入っていきたいと思います。案件の議事進行につきましては、並河市長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

＜並河市長＞
　それでは、案件の１番目、天理市いじめ防止基本方針（案）に係るパブリックコメントの結果報告について、事務局から説明お願いします。

＜事務局　三喜田＞
　いじめ防止基本方針につきましては昨年第２回の総合教育会議の中でご説明をし、またご議論いただきましたところです。そして年改まりまして、去る１月４日から２月２日までの間、パブリックコメントを実施しました。２名の方から合計９件の意見をいただいています。これにつきまして、いじめ防止基本方針の所管である学校教育課さんの方から説明をいただきます。よろしくお願いします。

＜事務局　吉岡課長＞
　失礼します。お手元の資料を確認させていただきます。パブリックコメントの概要と市の考え方、新旧対照表、いじめ防止基本方針（案）ということになっています。
　パブリックコメントということで、基本方針そのものを若干見直す必要があるというところを中心にご説明します。
　まず一つ目、基本方針の 13 ページ項目４（２）③というところをご覧ください。「重大事態への対処として、教育委員会及び学校は調査し、調査結果を市長に報告する。市長は総合教育会議を招集し、総合教育会議は講じるべき措置等について協議調整を行うとなっています。これでは対処方針を誰が提案し決定し、実行するのかが不明確です。まず最初に、教育委員会や学校が責任を持って調査に基づいて講じるべき措置を検討し、対処方針を明らかにすべきです。総合教育会議も協議調整するだけでなく、教育委員会の活動を補佐し、市長部局として必要な措置を講じる方針を提案する必要があります」というご意見をいただきました。それに対して、我々市としての考え方としてそこに書かせていただいておりますけども、重大事態が発生した場合に、教育委員会及び学校が初期対応を行って調査をし、それに基づいて措置を講じるということは当然のことであり、いまさら改まってここに書くことではないのかと思っております。しかしながら、調査結果を受けた後どうするのかということもありますので、③新旧対照表の裏を見ていただきますと、右側③総合教育会議の招集ということになっておりましたけれど、新しく③調査結果を踏まえた措置等ということで、「②の報告を受けた市長は、総合教育会議を速やかに招集し、当該調査結果を踏まえ、市長及び市教育委員会の講じるべき措

置等について協議調整を行う。その上で市長及び市教育委員会は、自らの権限及び責任において当該調査に係る重大事態への対処または当該重大事態と同種の事態の発生の防止のために必要な措置を講じる」と当該部分を変更させていただきたいと思っております。

次に、２つ目のご意見でございます。４ページ２の（２）にあたるところです。「教育委員会の付属機関として設置される「天理市いじめ・問題行動等対策委員会」の機能の２つ目の問題の解決を図るということが明記されています。対策の委員会の権限や活動指針、組織的位置づけ等を明らかにしないと実効性がありません。対策委員会の対策の解決を図るために詳細を明らかにしてください」というのがありました。それに対して、回答といたしましては、対策委員会は教育委員会の附属機関として教育委員会より諮問を受け、諮問を受けた事項につき調査・審議を行い、答申等を行う機関であり、重大事態発生時には第三者機関として当該重大事態の調査を行うものであります。これは当然のことであるのですが、そこに明記されているように、問題の解決を積極的に図るというものでは若干異なりまして、調査結果を受けて、それを精査して教育委員会及び学校にその方向性を提示するというのが本来の仕事ではないかという風に至りましたので、その部分を新旧対照表の表面をご覧いただきますと、右側下から２つ目②「学校においていじめに関する通報や相談を受け、第三者機関として当事者間の関係を調整するなどして問題の解決を図る」という部分があるのですが、その部分を削除させていただき、その代わり、今上程させていただいております設置条例のところに、役割として調査を受けた結果方向性等を示していくという役割を明記しておりますので、それで補えるのではないかという風に考えております。

その他については、特に基本方針を修正するには至らないご意見でございましたので、書面にてご紹介させていただきます。以上です。

＜並河市長＞

ありがとうございます。只今の点について、何かご質問・ご意見はございますか。

特段ないようでしたら、案件１については、新旧対照表に基づいて変更させていただくということで、案件２に移ります。案件２は総合教育会議における教育大綱の進捗管理について、事務局から説明お願いします。

＜事務局　三喜田＞

昨年 11 月の第２回総合教育会議におきまして、本会議にて進捗を図っていくテーマを４つにしました。１つは、小１プロブレムおよび中１ギャップの解消、２つは体力向上に向けた取組、３つは基礎学力の充実と学習意欲を高める取組の推進、そして４つは総合戦略に係る部分として、人づくりと街づくりをつなぐ重点施策という風に、４つのテーマに絞って今回の会議でご報告させていただくということになっていたかと思います。そこで今回、この４つのテーマに関して、幼稚園、学校、保育所、各事業の所管

課における取組の内容や課題をまとめた報告書を作成しまして、お手元資料の５番としてお示しをさせていただいております。ただ、本日の会議時間は最大２時間となっておりまして、４つのテーマすべてを扱うことはできないような状況でございます。そこで、本日の会議では資料の５番を見ていただきたいのですが、まず総合戦略に係る人づくりと街づくりをつなぐ重点施策として報告書８ページ（５）から 11 ページ（８）までを最初に扱った上で、その後報告書６ページに戻っていただき、（４）教育大綱に係る部分の基礎学力の充実についてご報告をさせていただきたいという風に考えております。ただ、（４）基礎学力の充実については、よりこの場でのご議論を深めていただくという観点から、この報告書ではなく資料番号６と本日追加資料としてお配りしました１枚ものの紙を以ってご説明させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

＜並河市長＞
　はい、それでは報告書の（５）から説明お願いできますでしょうか。

＜事務局　三喜田＞
　はい、それでは資料番号５番報告書８ページをご覧ください。本テーマにつきましては、所管でございます教育総務課の方から説明していただきます。よろしくお願いいたします。

＜事務局　西岡＞
　失礼いたします。教育総務課です。学校図書館及び特別教室の市民への開放の進捗状況について報告させていただきます。学校と地域のつながりを深め地域ぐるみの子育てを推進するための地域の中の居場所づくりとして、井戸堂小学校と前栽小学校で多目的教室の休日開放を実施しています。定期的に公民館だより等で施設開放の周知を行っているものの、実績としては、井戸堂小学校で２件の登録申請のみで、利用が進んでいないのが現状です。今後は、より利用しやすいよう登録の簡素化を図り、利用団体の増加を目指します。
　前栽小学校の図書館開放は、未就園児と保護者を対象に週一回（水曜日の放課後）の実施に向けて学校と、前栽小学校の図書ボランティアの方々と協議を進めていましたが、小学校の保護者の方から、平日の学校に学校関係者以外の者が入ることについての安全面や、プライバシー面を危惧する声があり、現在のところ、事前に日程を調整した前栽幼稚園やひまわり保育園の園児と、１年生との交流会を図書館で３度実施したのみとなっています。一方、櫟本小学校の図書館開放については、地域と学校で構成されるコミュニティ協議会が中心となり、１学期は試行として「プレ解放」を２回行い、２学期からは毎月第２水曜日に未就学児と保護者に図書館を開放しています。第１回のプレ開放では２名ほどの参加でしたが、直近の２月では２０名ほどの参加があり、口コミの効果

もあり、利用が広がっております。私も何回か行かせていただきましたが、校長先生が非常に熱心に取り組んでおられまして、校長先生が手作りのしおりとかどんぐり等を子ども達に渡すとか、学校図書館のレイアウトも学校の事務員さんが中心になって考えてくれておりまして、コミュニティ協議会の方々も手作りの書棚とかいろいろご協力いただいております。櫟本は地域と学校とがうまく連携して図書館開放が進んでいるのが現状でございます。このことにより、小学校の雰囲気に慣れることもできて、小１プロブレムの解消にもつながると思いますので、前栽小学校でも今後は適正な安全対策を講じた上で保護者の理解を得られるような成功事例を積み上げていきたいと考えております。以上でございます。

＜並河市長＞

ありがとうございます。この件につきましては私も昨日の施政方針でも櫟本のことについて述べさせていただきましたけれど、やはり学校と地域が主導になっていただいているので、確実に櫟本は進んでいけています。

前栽に関しては、安全ボランティアの皆様の中で、安全・プライバシー面からの懸念がたくさん出ており、抵抗感が強く、学校と地域とでこういう形でやれているという櫟本の事例を他の学校にも見ていただかないと、議論が進まないのではないかと感じております。

せっかくこの総合教育会議の場でもご議論いただいた部分がございますので、ぜひ進んでいないというご指摘も含めて、皆様からご意見をいただければと思います。いかがでございましょう。

＜前川委員＞

前栽の小学校図書館開放は、設計の段階からそのことも想定されて、セキュリティの部分も含めて計画を進められていたと思うのですが、保護者の方からの抵抗と言えば語弊があるのかもしれませんが、なかなか進んでいないというのは残念です。やはり自分のところだけがよければいいというような感覚ではなかなか地域で子どもを育てていこうというようなことに発展していかないですし、やはりそういった保護者の方の意識改革が必要なのかなと感じます。

＜並河市長＞

安全ボランティアの皆様からすると、学校外から危険性のあるものが入ってこないように、ボランティアで長年やっていたという強い自負心を持っていただいている中で、いきなりこういう話が上から下ろされたかのような形で出て、それに対して自分達がされていることをあたかも否定されたかのようなニュアンスで捉えられているのかということがあるのではないかと思います。

＜森継教育長＞
　１年過ぎましたので、保護者の意識も変わっておられると思います。

＜並河市長＞
　櫟本は図書館を開くということだけでなく、それをきっかけに交流の部分が次々に展開していくというのがありますので、非常に大きな差が生じつつあるなと感じます。

＜名倉委員＞
　地域的な差にすごく驚いている次第ですが、やはり子育ては地域と学校と三位一体というか、子どもはみんなで育てるという、心の開放というのがものすごく必要です。保護者の考え方を少し変えていくような櫟本モデルを紹介しながら少しずつ気持ちを解きほぐしていくというのが大事かと思います。前栽の保護者の方、ＰＴＡの方々と話し合いの場を設けていくというのが大事だと思います。

＜中嶋委員＞
　櫟本でボランティアされている方からお聞きしましたし、前栽小学校の多目的室の開放に限らず、地域の方のこれまでの自負も当然あると思いますし、その辺の配慮はもちろん必要で、考えなければいけないと思います。とにかく良いことだからといって勝手に進める、ということはしてほしくないという市民の意見も、中にはあるのも事実です。時代に合っているからといって、作業としてやっていくことになると、それはなかなか受け入れにくいことだと思います。私は前栽小学校の基本構想の策定に初期段階から参加をさせていただいたのですが、この取組は前栽小学校で初めてされたと聞いております。その当時、教育委員会事務局、校長先生、教頭先生、地域の区長さん愛護会長さん、交通安全のボランティアの方、色々な方が色々な意見を言って、このような学校になればいい、建物の平面図のプランではなく、例えば地域との交流、世代の交流がでればいいというような議論が出て、夢が広がりました。基本構想の策定時に学校に生えていた木を伐らないでほしいと言っておりましたが、この間見学に行くと、新館のホールの家具にその木が使用されており、参加者の思いはちゃんとつながっていました。そういうのを見ていると、関わっている人皆が他人ではなく当事者意識を持って自分たちの意見が反映されて、地域の学校ができたのだという共有ができると思うのです。ただ、残念ながらそこには見守りの方が入っておりませんでしたので、そういう方々ともう一度、学校とは本来どうあるべきかとか、みなさんが思っておられる学校の理想等を議論させていただいて、ただ単にその要望を聞くのではなく、本来揉める必要のないところで揉めたりするというのがよく会議であることなので、整理していく必要があります。究極でいくときっと子どものことを思っているのはみんな一緒ですし、正直お金もいただいていないのにボランティアをするなんていうことは普通なかなかできないことなので、そういう気持ちもかけがえがないですし、やはりうまくいく接点というのを見つけてい

かないといけないと思います。

そういう意味では、櫟本の場合は良い意味で運がよかったのだと思います。スキルのある適任の方が何名かおられました。現役大学生がボランティアとして来るということも本来はなかなか難しいことだと思います。地域の方からの一押しがあったからできたこともあると思います。

できないからといってみんながやる気がないとか、協力的でない、というわけではありません。天理市どこの校区に行っても思うのは、みなさん特に小学校というのをすごく大事にされていて、それは絶対間違いがないので、何かそれを会議なりそういう各学校で協議会を作っていただいて、すぐにできること、長期的にすべきことを議論しながら当事者意識を持って参加してもらわなければなりません。他所の地域でいくら良くてもこちらはことらで真面目に一生懸命していることがあるという場合は、親子喧嘩と一緒で良いのがわかっていても聞き入れられないのではないかと思います。

＜並河市長＞

おっしゃる当事者意識というのは一番大事なのかなと思います。櫟本の場合でしたら協議会のみなさんと学校や在校生等とのコミュニケーションがとれているのですが、前栽で話を持っていったときには反発をされた方もいらっしゃいました。今の児童を犠牲にしてなぜやらないといけないことなのですかというような言葉が非常に強くありました。幼稚園や保育園の子ども達に開放されている図書館があればよいという意識が多少あったとしても、それは今いる児童にプラスにならないどころか、事と次第によれば、その中に何万分の一かもしれないが変な人が混じっていてリスクにさらされるようなことをなぜ急にしないといけないのか、というニュアンスがあったと思います。

＜森継教育長＞

話しの最初にかけ違いがあったのかなとおもいます。最初に私たちが十分に説明できなかったので、それが大きかったと思います。もう一度ちゃんと話をしていけばと思います。

＜中嶋委員＞

今おっしゃっていることは、今回柳本のときにもやはり同じような意見が出ていると思うのです。本質は一緒だと思います。それをよくよく考えると、今の親御さんが、学校に幼稚園であろうが地域の方であろうが学校以外の方が来ることに対して、心配するということは事実として受け入れないといけないと思います。そしてその上で、本来学校のあるべき姿に向けてどうやって努力していくかということを、行政や学校だけではなく、保護者の理解、地域の方も巻き込んでいくというのが大事だと思います。

＜田中委員＞

私はこの件について調査をしたわけではないですし、比較する気もないですが、櫟本の場合には、学校長が中心で動いているのですか。

＜並河市長＞
学校長が相当イニシアティブをとってくれています。また、コミュニティ協議会の方に非常に熱心な方がおられます。

＜森継教育長＞
学校長がこんな人がほしいと言い出したと言った方がいいですね。そこで、お願いした結果、いろんな人が動いてくれたということです。

＜田中委員＞
何が言いたいかというと、ビジョンを持っている学校長は子どもの教育について全責任を持っています。学校長に訴える手法というのがあったのかということです。批判しているのではありません。どこに柱を置くかということをしっかりしておかないと、地域もまとまらないと思います。

＜中嶋委員＞
私が聞いているのは、校長先生がこういうのがあればいいなというお話を地域コーディネーターの方に言われ、その後長寿会の方にご相談されたということです。その結果どんどん話が膨らんで、そうするのであれば教える先生が必要という話になり、そこでまた地域コーディネーターの方の甥っ子さんである現役大学生を紹介するという流れにうまいこといったということです。最初の発端は校長先生がおっしゃったと聞いています。

＜名倉委員＞
引っ張っていくキーパーソンという方が何人かいらっしゃって、それがうまくかみ合ったということですね。

＜中嶋委員＞
田中委員がおっしゃるように、そもそも校長先生や教頭先生が自校では無理と判断してしまうと、そこで止まってしまうのが事実なので、やはり学校経営の中で、地域とこういうことがしたいというようなことを提案する人がいるかいないかというところがすごく大きいと思います。

＜田中委員＞

そういうことです。校長先生のビジョンもあると思いますが、まず校長先生を動かして、そこをうまく地域の人と絡みながら引っ張っていく体制を作っていく事が大事だと思います。

＜並河市長＞
校長先生のように現場に常にいる訳ではない教育委員会が、直でお話しにいってもなかなか動かないということはありませんか。

＜事務局　吉岡＞
やはり地域の方の動きというのは非常に大事なので、地域と一緒に何かを作っていくという思いが必要かと思います。校長の方からそういう提案をするというのも大事かなと思います。

＜並河市長＞
次の子ども教室・土曜講座、あるいは学習意欲等は今の話にもつながってくるので、６番の概要をご説明お願いします。

＜事務局　三喜田＞
報告書の（６）につきましては、ご担当生涯学習課の方からご説明いただきます。よろしくお願いします。

＜事務局　金守＞
それでは、（６）の進捗状況の報告をさせていただきます。
給食実施の水曜日に、井戸堂小学校児童を対象に、放課後の多目的室や運動場を活用した「放課後わくわく広場」を開催しました。30 分間の宿題を中心とした学習の後、集団遊びや自由遊び、工作などの事前に計画したプログラムを行いました。また、季節に合わせて、もちつきや正月遊び等にも取り組みました。子どもたちの興味関心を高め、子ども同士のつながりも広がりました。授業のある日の学校施設活用は利便性が高く、事業として円滑に進んでいますが、現在のコーディネーター２名は校区外から招いており、事業の継続性・発展性を考えると、校区内からコーディネーターを確保することが、喫緊の課題となります。
他方、朝和小学校の図書館では、これは校舎とは独立したところにある図書館なのですが、市内の小学生を対象に「サタデースクールてんり」を開催しました。学校での学習の基礎的及び発展的な内容を中心に、書写や図工、昔の遊び、伝統文化等の幅広い講座を開催し、また、講座前後の空き時間には宿題や復習の指導を行いました。この講座を通して、子ども達は、個々の可能性を最大限に伸ばし、自ら学ぶ喜びを実感し、「生きる力」を育みました。現在の課題は地域内での講師の確保が難しいこと、また、大学

生サポーターの応募が少ない上、長続きしないことです。さらに、休業日の学校が会場となるので利便性があまりよくありません。今年度、受付開始から半日で定員に達したこともあり、来年度は開催場所や開催回数を再検討する必要があります。以上です。

＜並河市長＞
　ありがとうございます。
　似たような事例なので、加藤課長（事務局)、福住の事例を紹介してください。

＜事務局　加藤＞
　只今、旧福住幼稚園で、毎水曜日、学校終了後、ぽかぽか工房という障がい者施設を運営されている事業者さんがございまして、ぽかぽか工房が毎週水曜日に福住小学校の子どもさんたちを対象に学童保育的な形で、勉強を教えたり、一緒に遊んだり、施設を開放して様々な取組を実際にしていただいているという事例がございます。ぽかぽか工房さんがいろんな取組をしている中で、福住だけでなく、先日本通りの稲田酒造のギャラリーのところで、障がい者の方が作った作品の展示もあり、そこに子ども達を連れてきて、見て一緒に勉強するというような活動もされているということで、現在２０数名の子どもさんが利用されているということです。

＜並河市長＞
　福住の全校生徒の割合からすると、圧倒的多数ですね。最初始まったときは９名ぐらいでしたが、それが瞬く間に口コミで広がりました。福住には学童保育がありませんでしたので、そういう意味では、天理市の直営事業ではないのですけども、大きな進展かなと思います。
　類似のことといたしまして、櫟本小学校のコミュニティ協議会の取組ですけれども、子ども達が地域の活動に積極的に貢献するしかけづくりということで、先般のはにわ祭りで実証実験されたのですが、校区ウォーキングに参加した１～５年生に６年生がいろんなことを説明して、このことを地域貢献のポイントという風に還元して「町の力」が語源の「マチカ」というのが配られています。その「マチカ」を持った子どもたちは、櫟本公民館で実施される放課後補講に参加することができます。これは、先ほどお話に出ていた地域コーディネーターの方の甥っ子さんが教師で加われたということでございます。今後もっと地域貢献をやっていく場所を増やしたり、今回はチケットで補講を受けるという権利を取得するということでしたけども、頑張ってそこで勉強をするということも一つの貢献だということで、補講を受けることにもポイントを付与して、貯めたポイントを自分の夢をかなえるという企画につなげていくというようなことを、北部まちづくり協議会で進めさせていただいています。
　井戸堂・朝和の方はどちらかというと行政主導でやっておりますが、一つの課題としては、校区外から指導者を募っているということで、持続可能な形でやっていくには、

校区内から盛り上がらないといけません。そういう意味では、櫟本や福住は地元に熱が入って推進力を得ており、強いなということが明らかになってきたかなというところです。そのあたりの事例もしっかり共有しながら進んでいきたいと思っているのですが、この点につきましては、ぜひご意見等ございましたらぜひ伺いたいと思います。

＜名倉委員＞
　井戸堂小学校の放課後わくわく広場は、教育委員会が主導で行われているのですよね。どうして広がらないのかなと思いまして。コーディネーター２名というのは何か決まりがありますか。

＜森継教育長＞
　広がらないわけではなく、コストパフォーマンスがあまり良くないといった方が良いかもしれません。指導者は贅沢に配置して子ども達の満足感を得ようとしています。

＜並河市長＞
　福住は、ぽかぽか工房さんが自由闊達にされている中で、利用者が劇的に増えて全校生徒の過半数に達したという状況なのですが、どうしても教委で予算付けてすると単価ベースで回数・講師謝礼云々と色々とありますので、現在井戸堂小学校でやっているようなことを他の校区全部にまで広げようとなりますと、予算上率直に言って無理というような状況です。これを本当に継続的に発展性を持たせてもっと回数を増やしていこうということをする場合に、外部からの講師謝礼という部分だけで対応していくと、なかなか難しいなと思います。

＜事務局　金守＞
　コーディネーターの方２人は、退職された教師の方を採用しておりまして、サポーターの方は地域の方に来ていただいています。最低賃金という単価ではありますが、それでも１回３時間という単価で雇うという形にしますと、毎水曜日の実施なのでかなりの金額になります。

＜名倉委員＞
　始まりは教育委員会主導にしても、やはり井戸堂小学校の先生方やＰＴＡのみなさん全員を巻き込んでこれから進めていくべき取組だと思いますので、やはり協議会で話し合うとか、この取組の周知をもっとするとか、自治会の方々に言うとか、みんなを巻き込むような話し合いとか、ちょっと議題に挙げてみるとかいうのも必要かと思いまして、やはり教師経験者もたくさんいらっしゃると思いますので、我こそはボランティアでしてあげようという人も必ず出てくると思うのです。ですので、学校だけですというと、入っていきづらい人も多々いらっしゃると思いますので、区長会とかにも声をかけてみ

るとかして、みんなで見守っていく必要があるのかなと思います。

＜並河市長＞
　おっしゃる通り、いったん今はそういう状況かなと思います。

＜森継教育長＞
　地域の方には声はかけています。ただ、学校の方は、学校の先生方には関わっていただかないという方針でやっております。アイデアとかをいただくことになると思いますけども。

＜並河市長＞
　それをやはりもう一度しっかり学校の方で考えていかなければいけない。

＜中嶋委員＞
　少し冷めた意見かもしれませんが、好意に期待してやるには限界があると思うのです。本当に必要であれば、好意を受け入れてもらえるようなＮＰＯなり団体があると聞いたりもしていますので、そういうところと話を実務的にしないと何年経ってもできないのではないかと思います。

＜並河市長＞
　現在井戸堂小学校では、教育長が言われたように、学校は関わらないというような形ですけども、今まさに学力向上に向けて各学校で補講をしようという話をしているのですが、それを進めるにあたっては本市の予算を投入しないといけない部分も当然出てくると思いますが、それに加えて民間のしっかりした団体との連携しつながらないといけません。

＜中嶋委員＞
　「天理市の子ども達の学力が低いのはどうしてくれるんだ行政・学校」と言っている保護者の方がいますが、大いに考え方を変えていただかないといけません。これは家庭教育の重要性が大きいのでありまして、やはり家庭での教育や親のしつけというのを本当にしていただいた上で、学校が受け入れる、先生が受け入れる、地域が受け入れるということをしなくてはならない。これから福祉費がどんどん上がっていき、財政が苦しくなることはあっても楽になることはないわけで、行政それだけしかやってくれないのですか、もっとやってくださいというような一昔前の行政運営になってしまったら持続していかないので、私も保護者に近い人間として危機感を持っています。

＜並河市長＞

ＰＴＡのみなさんともこの問題についてしっかり協議する場というのを持たないといけないかなと思います。今連絡協議会の総会に招いていただいて形式的に挨拶を述べるというのが年に１回だけありますけれども、あれだけでは到底できないなと感じます。ただ、全員の親御さんに来ていただいて全員同じペースで意識改革をなさるというのは多分家庭の意識といっても難しいかなと思っておりまして、問題意識をわかってくれるところからでも進んでいかないといけないと思っています。

＜中嶋委員＞

実は教育委員会の生涯学習課というのはＰＴＡの窓口でもあり、子ども会の窓口でもあり、青年会議所と一緒に教育事業もやりますし、ジュニアリーダーもやりますし、公民館もやりますし、生涯学習のすべての窓口なのですが、これから天理市全体で地域を巻き込んでいくためにはそういう部署が持つべき役割がすごく大きいのですが、残念ながら教育委員会の一部署で職員の人数も多くないというところで、やはり機構の在り方も含めてそういうものも作ってやっていかないといけません。行政でお金をかけてやれることや市民の方に協力を願うこと、保護者の自覚でできること等たくさんありますが、旗を振らないといけないのはやはり行政だと思いますので、行政で必要なことの全部しようと思えば絶対無理なので、これを可能とする仕組みづくりをする必要があります。

＜並河市長＞

今生涯教育と言っていただきましたが、学校教育と切り離され、別物としてやっているという発想から、両方が相互に影響し合う部分だという認識がきっと必要だろうと思います。

＜田中委員＞

そもそも放課後子ども教室・土曜講座はなぜ必要かというところが重要です。居場所がなくて、親も仕事に行っているといった子ども達を対象に、放課後に安心安全の場所を与えようということだと思います。参加者が少ないなら少ないで良いのではないだろうか。子どもが安心できる親に育てられ、安心できる環境の中で習い事をするというのがあっていいのではないでしょうか。その中で、ぽかぽか工房さんがやっておられるように、必要なときにはいつでもおいでというような形を継続していく方が正しい考えではないかと思います。

＜並河市長＞

今確かに話が混在してしまっていたかもしれません。確かに去年教育大綱を議論していたときは、目指すべき方向性として、学習塾の補完的な部分というよりもっと地域の中で人のつながりを感じられるような機会を創出していかないといけないという部分が非常に大きかったと思います。その後に、学力低下が深刻である結果が出てきて、これ

も何とかしなければとの思いの中で少し混乱したような話になったかもしれません。居場所づくりというところの重要性、ただそれが結局子ども自身の生活リズムなど、いろんなところに向かうポジティブな姿勢というところではこの点つながっているかなと思います。先日県の教育サミットで、アンガーマネジメントということを私と教育長と二人とも聞いてきたのですが、だいたいそこの話に通じるかなと思います。

＜森継教育長＞
　子ども達が放課後にわくわくと、のびのびと過ごすというのが目的だと思います。土曜日も来て楽しい時間を過ごしておられるというのが一番だと私は思っています。

＜並河市長＞
　ここでちょうど時間が半分ですので、ここで（４）の基礎学力のところについて、しっかり時間をとってお話をさせていただければと思います。この報告書と追加資料とを併せてご説明お願いします。

＜事務局　三喜田＞
　会議の冒頭にも若干ご説明をさせていただきましたように、基礎学力に関しましては、資料の６番（追加資料）と、本日お配りしました「さまざまな力　質問内容」と書かれている一枚もののさらに追加資料の２点をもちましてご説明をさせていただきたいと思います。

＜森継教育長＞
　ちょっと最初に私の方から資料６でご説明させていただきます。
　教育大綱の中では「自分の力で未来を拓いていく力を持った人づくり、社会に貢献する人・社会に多くを与える人づくり」ということを目標に掲げています。
　そして、市の学校教育課が行っているアンケートで、学校に行くのが楽しいと思うかという質問に対して、小学校で 83%が肯定的、中学生で 77%が肯定的に捉えております。ただ、小６だけで言えば、87.3%、中３は 83%でしたので、中３の方は国の割合よりも高い数値を示しており、少し安心しております。
　次に、大阪大学の志水先生が提唱する学力の樹の根っこの学力「学習習慣・自尊感情・目的意識」を育てることが重要であり、これを数値化したものを「学習習慣の定着」「自尊感情を高める」「目的意識を高める」として３つ挙げています。
　学習意欲は国の平均より高くなっています。次に平日１時間以上勉強する割合というのは、小学生が 42%、国では 62.5%、天理市全体で低くなっています。それで隣には中学生の数値が書いています。48%です。自尊感情を高めていかなくてはならないということで、自己肯定感については、小学生が 81%、中学生が 75%、国の平均より若干低くなっています。その中の小項目で「自分にはよいところがある」という設問があり

ますが、小学生が 72%、国が 76.3%ですので低いです。それと、「自分は先生に認められていると思う」については、これは我々が反省しなければならないと思うのですが、国は 82.6%であるのに天理市は 67%でかなり低いです。中学生は、国で 78%であるのに、天理市は 58%となっています。最後に、将来の夢や目標を持っているというところですが、小３で 91%あるのに中３になると 70%まで下がってしまっています。後ろの方にはグラフもお示ししております。

この後は学校教育課の方から説明させていただきます。

＜事務局　綿谷＞

今教育長からお話していただきましたことから、課題は何であるかということで、黒い括弧で書いてある５点に整理しました。

課題５点は、１点目に学習習慣の定着、２点目は基礎学力の向上、３点目は授業改善、４点目は教職員の意識向上、５点目は生活習慣の改善です。

そして、この課題に対する具体的な取組みや手立てについて箇条書きで記載しています。児童や生徒への働きかけとして出来ることとして、学習習慣の定着について、市長からお話がありました通り、まず１点目に放課後学習について載せております。これについては、学習習慣が定着していない、宿題が出来ていない子を中心に考えていけたらということで、今年度もすでに取組んでいる学校も何校かありますが、来年度から本格的に取組んでいけたらと考えています。

また、学習規律の事や基礎学力の向上の為にやっている事を記載しています。続いて資料裏面の授業改善、普段の学校におけることも含めてとても大切なこととして挙げております。これについては、シンプルに分かる授業をしなければいけないという事と、子ども１人１人にきちんとした学びがあるという事、そして授業の中で１人１人が考えていることが互いに認められたりとか、授業のなかで位置づけられていることが大事にしていかなければいけない事だと思い、授業改善を考えております。それはすべての子に対してですが、特に低学力の子に対してこういった事を大切にしていきながら、自尊感情、自己肯定感が上がるように考えていかなくてはと思っております。そのための授業を考える会として、今年度、国語の授業研究会を立ち上げまして学校教育課の主導主事もついて学校の先生と一緒に授業を考えていく取組を１年間やってまいりました。

学力学習状況調査の結果を分析して、その分析結果をみて具体的な手立てを講じることも各学校で行っております。それから教職員の意識を変えていくこと、そして保護者・家庭への働きかけ、また地域への働きかけも大切と考えておりますので、記載しております。

＜並河市長＞

基礎学力という部分について、来年度はしっかりと取り組んでいきたいと考えています。すべての教科ではありませんが、ご存じのとおり１２市のなかで最下位になっています。施政方針に書かせていただいた事で、学校現場のみなさんがこの課題にどのように応えて

いただけるのか分からないですけども、ぜひ意識として共有させていただきたいと思っています。私も学力テストの結果というのがすべて教育の成果に反映しているとは思いませんし、それに一喜一憂をするものではありません。また、他県において学力テストの補講や模試までやって点数を上げているというような事について報道もあり、それは弊害があるのではないかと指摘をされているところであって、公教育の意義は、点数を取る事だけではないと私も思っております。

しかし、県平均と比べて歴然とした差があるというのが出てしまっているのは、真摯にとらえないと、子ども達の将来の選択肢を狭めてしまいます。

先日かがやきポストに、差が開いている事について危機感が薄いのでないか、そんな時に運動会の予行練習だけ３回４回とやって、何をやっているのかという内容だったのですが、そういう声が出てきてしまった時に、教育の本丸ですので、これは真摯に受け止めざるをえないと思います。

学校現場の責任だけという風にこれを見るというのはいかがなものかと思います。常に必死に教職員の皆様方で対応されているわけで、カリキュラムも飽和状態に近い中で、点数を何とかしようという号令だけをひたすら発していってもどうにもなりません。先ほども申したようにすべての生徒が出来ないというわけではなく、上位の層が薄く、低い層が比較的多いということで平均点をぐっと押し下げる要因になっています。公教育のあり方としては、上位層の部分を増やすというよりか、底上げという部分をしっかりやっていかないといけないのではないだろうかと考えています。

この点について、天理市は児童数が多いのにもかかわらず、市独自の教員の加配をやっていないのではないかと議会でも随分指摘を受けるところですが、現実には小学校において３０人以下の学級が８４％です。３０人以下の学級とそうでない学級とに差が生じているかというとそうでないわけで、３０人学級でない事だけを理由として挙げるのは違うことになります。

家庭と地域と連携しながらそもそもの学習習慣という事をどう付けていくかという事を本当に２９年度に取り組まなければならいという時期だと問題提起をここでさしていただきまして、教育長の方から各学校へ施政方針を配布いただいています。

放課後補講の実施について、当初は教育委員会から全校で実施と言った時に学校現場の大変さを十分に分かっていないのではないかという意見も返ってくるというのが大いに予想されますが、６時間近い授業を１時間以上の学習というのが過半数全くない状態で学力を上げようといっても、それはかなり困難です。分からない状態でカリキュラムが次々と進んでいった場合に、一度戦線離脱してしまったお子さんはどんどん分からなくなってしまいますし、そうすると学習に対する意欲というか自尊感情まで傷ついていってしまう事ではないだろうかと思います。特に３年生４年生、色々なところで議論はあるところですが、九九が終わっていよいよ分数とか若干複雑な問題、文章題が本格的になってくる、漢字の種類も増えてくる辺りで、学習習慣があまり無いご家庭では１歩下がっていってしまうことになります。そうなると、中学までというのはどんどん差が開いていってしまう一

方だろうという認識を持っております。中長期からすればこれにしっかりと取組んで、早い段階から歯車のズレル事がないようにしていく事が、中長期的な負担を現場としても軽減する道であるということをご理解いただきたいという事を施政方針で申し上げたところです。

＜森継教育長＞
　個々の教員のところにはなかなか伝わっていないかもしれませんが、そういう趣旨の事は校園長会で伝えています。確かに、市長が言われるように、放課後の補習などの努力する事で理解できるようになれば学力もついてくるということで、中長期的には改善になるのではないかと話をしていますが、教員の方からは現状の大変さを考えて欲しいとの意見が返ってくると思います。

＜並河市長＞
　もちろんそうですが、学力が低いということに保護者の方は気づき始めていて、それでいて天理で育てることに誇りを持ちましょうと言われても、空虚に聞こえてしまいます。基礎学力の向上という本丸への取組をしっかりやってるという事でなければいけないと思います。放っておいても塾にどんどん行かせるような市町村はそうされたら良いですが、本市の場合は、塾に行かせている率は比較的低いですね。

＜事務局　吉岡＞
　はっきりとした統計はなく、また、学校間によって温度差はありますが、割合的にたしかにおっしゃる通りかなと思います。

＜並河市長＞
　公教育が担っている役割が本市の場合は高いということは、この根源的問題は何かという事を校長先生だけではなく、真剣に学校の中で議論をしていくという事がないと総合教育会議は何なんだという事になりかねません。ぜひご意見をいただけたらと思います。

＜田中委員＞
　学力が低い低いとやってしまうと、みんながそんな感覚になってしまう事によって、やる気がなくなってきます。やりがいがない、やっておもしろくないという認識しか生まれてきません。是非良いところを探してほしい。かつて荒れた学校でいくら頑張っても、地域の感覚、評価、認識が上がらず、やっと上がったとしてもひとつ狂ったらもとに戻ってしまうので、市民の認識をそういう形で広げてはなりません。それよりもここが良い。頑張っているという事をもっとやるべきではないかと考えます。
　また、「分かる授業」って今頃言っていたら遅いと思います。分かる授業をどの程度やっているのかという報告を聞きたいと思います。これからは、先生方の生の声が何もない。

これから生の声がほしいと思います。やるのは先生であって、校長ではありません。校長はビジョンを持って的確にアドバイスをして、その結果、アドバイスされた先生が私はここが劣っていると思うことを出してもらって、的確な環境づくりをしていくということのほうが、効果があるのではないかと考えます。

＜並河市長＞
平成２０年代前半までは、差は大きく出ていなかったにもかかわらず、現状このようになってしまっています。そこの根本原因を各現場の中で真剣に議論するという空気を作っていかないといけないと思います。結果は結果として真摯に受け止めざるをえない部分があります。学力テストの点数が低い層が大きいという部分が、学校全体の空気づくりだったり、色々な事に対し肯定的に取組んでいく学力以外の部分においても、否定的影響を及ぼしているのではないかと、仮設ではありますが、考えられるところです。

＜田中委員＞
学力よりもそっちの方が大事だと思います。

＜並河市長＞
先生から認められていると思うという指標に国との間でもの凄く差があるという事ですが、ここを学校現場には強く申し上げたい。先生が一つでもいいから自分の良い所を評価してくれているというのが、子ども達に伝わっているというのが教育に取り組んで行く子ども自身の姿勢にも大きく影響が及ぼすだろうと思います。それが、先日の教育サミットでアンガーマネジメントという色々な取組みがあって、みんなの気持ちの安定性であったり、自分の言葉でキャッチボールできるかという事の講習でしたが、その時すごくこだわって専門家の先生がおっしゃっていた指標が、それが先進的に進んでいる大和高田市の土庫小学校の場合、自分が先生から認められていると思うという指標がぐんと上がっています。ひょっとしたら先生のなかでどうしてもカリカリしてしまって、先生自身もイライラが溜まっている状況において、それが生徒に伝わってしまっているが故に本当はこの子はこういう良い所あると内心わかっていたとしても、子ども側に立っていった場合にはそうとは受け止められない空気が強まっているとすれば、これは非常に危険な事です。だから、私は、学習の部分だけ上げてくださいと申し上げたいというわけではなくて、せめて自尊感情に直結する部分はしっかり上げていきたいと考えています。

＜中嶋委員＞
ずっと聞いていると、市長・教育長・田中委員おっしゃっていること全部両立できる事だと思います。教育長がおっしゃっているのは、教育委員会のトップですから、結果についての責任を教育委員会、事務局、学校現場は大いに感じなければならないということを個々が認識するべきだということを言っていただいて当然だと思います。ただ、田中委員

がおっしゃっている事は、先生によって子ども達の事も考えていただいて、授業も分かり易くて、天井にまで絵を書いて説明してくれるような、まさに金八先生みたいな先生が天理市に沢山おられますが、かたやあの先生子どもの純粋な言葉を本当に大切にしてくれていたのかと疑問に感じる先生はおられたという事も聞きます。色々なケースがあり、色々な先生がおられる事を認識して、それを変えていく必要があります。組織としても熱意を持って子ども達に親身になって考えてくれる先生の事は正しく評価しないと、全員がやる気なくなるのではないかというのが田中委員のご意見だと思います。数字は一喜一憂してはダメだと思います。私は、初めから教育委員で疑問だった事は、市役所だったら年度・年始の初めに年末に市長が全員の役席の方に話をされますが、学校の場合は、学校単位です。なので校長先生の資質というのが非常に大事ではないのかと感じており、教育委員会でも話が出ています。

＜並河市長＞

先日の教育サミットに出さしていただいた時に、非常に重要だと思ったのは、学校の中で教職員の皆さんが連絡事項以外にちゃんと話し合える時間を持っていますかというとこです。中嶋委員がおっしゃっていただいたように、すばらしい先生がたくさんおられて、それぞれ取組んでいただいていますが、それが個々の努力に終わっていないでしょうか。本当に学校全体がチームという形になっているでしょうか。頑張っていただいている先生も自分のところだけの取組になってないでしょうか。そうなってしまうと結局先生の中で当たり外れがあったり、あの学年はラッキー、この学年はアンラッキーということになって、それって組織としていかがなものかと思います。施政方針で「学力テストの結果に一喜一憂するものではない」と書かせていただきはしましたが、あえて問いかけたいのは、皆でその問題について話し合う機会を持ってもらいたいのです。

とにかく、全員がダメだと言っているわけではない、頑張っていただいている先生で素晴らしい取組みもある。それが、当たり外れではなくて、スタンダードになっていくにはどうするのかというところからすると、表面的な点数ではなくて、根本的に一定数わからないままいってしまっていて、学業に取組というところから引いてしまっている層が天理の中で見受けられるわけで、それに教育現場がどう取り組んで行くのかを真剣に話し合っていくなかで、それぞれにあとは創意工夫があれば全員が同じことをやらなくても良いと思うのです。何気なく流れていってしまっていうようなことであっては、もうその状況の時期は過ぎていると考えます。

＜田中委員＞

会議資料の報告書を読んでいて指導者の相互理解・連携の取組が不十分という文言があっちこっちにあります。指導者の相互理解が出来ていないというのが、今市長がおっしゃっていることですよね。ここにメスを入れるとすれば、小学校における低学年部会や中学校の学年部などがちゃんと機能しているのかというのを点検しなければならないと思いま

す。当然学校長のビジョンを踏まえて各学年の中心人物がその意向をどう酌みながら進めているのか、子どもの実態をどうとらえているのかを確認する作業が必要です。私は、かつて小学校で英語教育に関して１年生から６年生までの傾向を測るために学年主任制度を作りました。学年主任者会では先生方はたくさん考えてくれました。このように一度組織を再編していく事が大事ではないかと思います。そして、それを学校長に委ねていかないと、あーしなさい、こうしなさいでは、邪魔くさいなというようにしか思わないのではないかという気がします。

学力を上げるために夏休み中に研修をされています。そこでどんな研修をされているのか聞きたいと思います。学力を上げるために、小学校１年生ではこんなことをしよう、2 年生ではこういうことをしようと、段階を踏んで、例えば、西中校区だと西中の先生方が一堂に会して、学年ごとにやっていることを分科会に分かれてやっているのですか。

＜事務局　綿谷＞

はい。

＜田中委員＞

そうすると、効果は出てくると思います。そこに幼稚園も保育所も入れていくと、それが天理市全域にわたって子ども達をみんなで見守っているという組織になっていくと思います。まだ、時間が浅いかもしれないが、そういう事を提案しながら、まとめる側が我が子という意識をもってまとめないと、形だけでやっても学力はあがりません。市長おっしゃるように、心を耕さないといけません。貧困と学力の問題もあると思うので、そこは別個にアドバイスしていかないといけないと思います。そういった教師をいかに立ち上がらせていくのかという、組織づくりが非常に大事ではないかと思っています。

＜名倉委員＞

公教育であるが故の先生のスキルはすごく大事であるが、中学に入った時点で学力レベルはある程度決まってきている。低レベルの子達は、小学校まで戻ってまた学習しなければならないという子がたくさんいると聞きました。小学校が大事かなとすごく思います。キーポイントの学年があると思います。だんたんと勉強が難しくなる、単元が難しくなってくるキーポイントのところでぐっと皆で力を寄せて教師が教えるとか、ポイントを定めて学習要領を作る必要があると思います。

また、教育長がおっしゃった、学力の樹の根っこの部分を耕すというのは、心の問題ですので、それもすごく大事ですが、学力の低い子ども達がたくさんいると、それに流される子達もたくさんいます。先生のスキルの分での当たり外れはあります。保護者からみたらすごくよく分かります。ただ、その先生にもってもらっている子でも頑張っている子は頑張っています。自分で家庭教育などで頑張っています。子どもや家庭の甘えもすごくあると思います。意識の問題がすごくあります。一言では言えない教育の難しさがあります

が、色々な場面を想定して多様に解決していく必要があると思います。

＜中嶋委員＞
　車に乗るには免許がないと絶対乗れないように、中学校行くまでに絶対つけておかないといけない学力が幾つかあると思います。例えば漢字、九九、こういうのは難しいというよりも究極の暗記みたいなものだと思います。感情も大事だと思いますが、科学的に考えて天理市の小学校 6 年生もしくは 5 年生までに、出来るところの目標を具体的に作って、漢字と九九だけでも小学校の間に完璧にできると、これは暗記だと、見て覚える、忘れたら次の日にやると 6 年間続ければ絶対出来る事だと思います。そういう事を塾では当然やっていますし、そういう事を真似てもいいので、天理市の学力を上げることを、絶対にやるというところで、科学的にやってあげないといけないと思います。ではどうするかということで、先生のスキル、親の質など言っていったら、課題の解決に何十年もかかってしまいます。子ども達が覚えてくれたら良いわけです。

＜並河市長＞
　そこで、さっきキーポイントと言う話で、私の認識は 3・4 年生、中学年が一番学習習慣をつけるかという分かれ道という認識です。

＜事務局　吉岡＞
　市長おっしゃるように、算数では、すごく難しくなりますし、国語も漢字のレベルも量も増えてきますので、九九をまずクリアーして次の段階というところがひとつの分かれ目になるのかなと思います。

＜並河市長＞
　そこで、私は勉強分からない、やらないというようになるのか、一定の自分で学習するという習慣をつけられるのかと非常に大きいかなと思います。

＜事務局　笹尾＞
　漢字につきましては、天理市の子ども達に定着していない事が分かりましたので、各学年でこの漢字を必ず押さえなければならないという学習プリントを各学校に配付して、必ず活用して下さいとお願いをしたところです。

＜並河市長＞
　今後、補講という話も出ていますが、全学年全員残ってみっちりというのは、難しいと思うので、ある程度ターゲットを絞りながら、そこを着実にやるということが出来た時には、ある程度このタイミングの皆さんが大事だという事を学校現場と話をする中で、ぜひやっていきたいと思っています。

＜中嶋委員＞
　どこかで取組みを聞いたのですが、先生がするには限界があって、一番良いのは、子ども同士で理解できた子が分からない子に教えるというものです。スポーツでもそうですが、人に教えようとするとよほど自分が理解しないといけない、人に教えることで、また新しい気づきもあります。

＜事務局　吉岡＞
　アクティブラーニングについては、今やり始めているところです。子ども同士が学びあい、それをいかに深い学びに繋げていくかということですが、大事なところは、アクティブラーニングと言葉に踊らされて、形だけを追求するのではなく、あくまでアクティブラーニングは手法であって、その手法を使っていかに子ども達を深い学びに結び付けていくのかというのが、これからの教師の研究の課題であると思います。
　余談ではありますが、この会議に入る前にある校長先生と話をしていましたが、比較的学力が低い学校の校長ですが、授業に入ると楽しいとのことでした。なぜかと言うと、知っていると思っている事を知らないということで「へえーそんなことか。」とか授業していてものすごく驚きがあったり、歓声があがったりとかするそうです。その校長先生が以前に勤めていた学校は、比較的学力が高く、塾で習っているから今更先生何を言っているのかという反応の子もいたとおっしゃっていた。これは素敵な事だから先生方に返して下さいといいました。現在市にはたくさんの教師がいますが、教える事が楽しいなと思いながら教えている教師が何人いるのかなと思います。楽しいと思って授業をしていたら、当然授業の質も上がっていくだろうし、子どもに返っていくプラスアルファ―の面もあるということで、確かに先生方は忙しくはありますが、教師の意識改革ということで、いま一度教えることは楽しいことだということを教育委員会としても掘り起こしていかないといけないと考えています。

＜並河市長＞
　今先生がしんどいことが子どもに伝わってしまっています。〇〇先生がしんどくなっていなくなっちゃったと子どもが分かったりしています。

＜中嶋委員＞
　勉強というのが、しんどい事ではなく、楽しい事ということと大人も子どもも思えるかどうかで、違ってきます。

＜並河市長＞
　学び合いの授業について報告書に挙げている学校がありますが、一方で学び合いだったらよいが、分かる生徒が優越感をもって一方的に教えるだけという環境になってしまった

場合、教室のなかで本当に楽しめるのか。必然的に塾に行ってどんどん進んでいる子がこんなん出来ないのかというようになってしまうと、非常に危険だと思います。

＜田中委員＞
　人間関係づくりがなければできない。そういうのを今やっていると思います。子ども同士の関係づくりの上に立ってやらないといけません。それを今やっているのが学び合いの授業だと思います。

＜中嶋委員＞
　人間関係が出来て他の子には聞けないけど、あの子には聞けるという人間関係があればよいです。苦手な科目であっても嫌いな人から絶対教えてほしくないと思います。

＜教育長＞
　アンガーマネジメントの点から「大嫌い」ということは避けたいですね。

＜中嶋委員＞
　大和高田市の土庫小学校は、アンガーマネジメントの先進校なのですか？

＜並河市長＞
　ある先生が自主的に一人自主研修を受けに行って、比較的小規模校の利点を生かしてまとめていかれました。確かに、それについては良い例かもしれないが、自主研修にその人が行ったことを美談にしてしまって組織としていいのかという事をサミットで申し上げました。サービス残業をやることがいいのだと言っているのと等しいように思います。また、自費で行ったという事が褒められていて、その先生は立派だと思いますが、そういう英雄的な先生がいないと前に向かっていかないというのは、組織としていかがなものかと感じるところではあります。

＜田中委員＞
　それに関連して、例えば授業研究や模擬授業に関して、その指導者は誰がやっていますか？

＜事務局　吉岡＞
　学年部でやる場合もありますし、指導主事が出て行ってする場合もあります。

＜田中委員＞
　超ベテランの教師が天理にたくさんいます。そういう方を講師として呼んで来たらいいと思います。過去にどう子どもを引き付けて、この問題どう展開してきたのか、引き出し

をたくさん持っていらっしゃるので、そういった方に来てもらったらいいと思います。市長がおっしゃる問題も解決するのではないかと思います。どこかに行って勉強するよりも、近いところでお願いしたり、あるいは大学の先生中心でやってもらうとかそういうやり方があってもいいと思います。

＜森継教育長＞
天理大学に元小学校の先生がおられるので、協力を求めたいと思っています。
先生にゆとりを与えるということでは、朝ゆっくりしてもらおうと思ったら、連絡する時にグループウェアみないなものがあって、連絡が先に共有できるようになっていたら、それを子ども達に渡したら子どもが連絡して先生が心を耕す話をするということができるようになっていく。また、クレーム等があった際に対応できるスクールソーシャルワーカーとか、学校のＯＢの先生に協力してもらうということで、応援もしていきたいと思います。

＜並河市長＞
議論が多岐に渡りましたが、今回問題意識を学校と共有していく中で、良い部分を伸ばしていって、チームとして、一方的になって現場と心が乖離するということがないように努めていきたいと思います。

＜前川委員＞
学力向上については、学校教育の問題、その中でも先生の質の問題は当然あることと思います。加えて気になるのが、資料の 4 ページにデータが出ていますが、テレビ・ゲーム・スマホの数値が小学校・中学校とも高いということです。これは、家庭学習の時間が無いという結果だと思います。それについては、保護者の働きかけだけで改善は難しいと思います。根本的な改善策を保護者に対してやらないかぎりは、この数値を下げないかぎりは、家庭学習の確保は絶対無理だと思います。

＜並河市長＞
子どもの放課後教室もそうですが、テレビ・ゲーム・スマホ以外に、子ども達にとって有意義な時間の過ごし方がどれだけ準備されているでしょうか。他に楽しいことがなくて、目の前の安易な遊びをする、それがテレビ・ゲーム・スマホだから、その率が上がってくるのではないのかと思っておりまして、有害だと言っているだけでは率は下がらないので、テレビ・ゲーム・スマホ以外の建設的な取組や外遊びの機会の創出とセットである必要があるのではないかという問題意識があります。

＜前川委員＞
学校評価をされていると思いますが、授業・生徒のアンケート、保護者に対してのアン

ケートの中で、教職員の自己点検評価もされていますよね。そういうもので先生方の自分が授業しているのが楽しいとかそういう項目があると思うのですが、きちんと学校評価のなかで取組んでいただきたいと思います。

＜事務局　吉岡＞
今各校で点検してもらっています。

＜並河市長＞
昨年度も含めて自己点検評価において何か気になるポイントはありましたか？

＜事務局　吉岡＞
昔は核になる先生が何人かおられて、各学年に一人くらいはミドルリーダー的な先生がおられて、その先生が主任的なクラスになって、校長先生の思いをその先生を通して下におりていくという組織がありました。最近は、職員の年齢構成が二極化していて、本来あるべき姿がないというのがあります。先生方の中には悩みながら日々授業している方もいると思いますので、アンケートを通して先生方の悩みを把握していく必要があると考えています。

＜並河市長＞
学校をチーム全体としていく必要があるという事に尽きると思います。そのためには校長先生だけが旗を振っても難しくて、それぞれにサブリーダーになっていただけるような人も必要であるし、サブリーダーと話が出来るような機会の確保をともなっていないと難しいと思います。

＜中嶋委員＞
教育委員会の中でも以前から議論している事ですが、天理市内に教職員の方が 300 人くらいおられるという話ですが、教職員ＯＢの方もたくさんおられると思います。そういう方々のお力を借りたらという事が話として出ていますが、それに対応できるＮＰＯ等があるのであれば、今日出てきた幾つかの問題を相談したり、多少費用がかかってもそこから人材を派遣してもらったりしてはどうかと思います。天理市全体のなかで、教育以外のところでは色々なところと連携して市民協働のなかでやっていっていると思います。ただ、教育だけは一般市民はできないので、専門家であるそういう方々のご厚意をいただけるのであれば、行政からの働き方で構築できるのであれば、地域の財産にもなるし、可能性はそこにあるのではないかと思います。

＜並河市長＞
退職校園長会がありますけど、今教職員ＯＢの方とやり取りはどうなっているのでしょ

うか。

＜森継教育長＞
　退職された先生方の家庭に、放課後講習を手伝っていただきたいとお願いの紙を配らしていただいています。

＜田中委員＞
　授業が好きな人もおられるし、モノづくりが好きな人もおられるし、多様なレパートリーでやっていくとよいです。

＜中嶋委員＞
　そういうことがあれば生涯学習など色々なことにつながってきます。

＜並河市長＞
　リーダー的な存在の人達と今の課題意識を共有する機会を一度きっちりと意見交換会で持つなかでないと、さっと流れてしまう可能性があります。

＜中嶋委員＞
　幼稚園だったら主任先生が 30 代になってきている。数年後に 40 代の園長先生がでてこられるかもしれない。そういった時に、学校教育課だけの限られた指導主事の方だけでは目先の課題がたくさんありますから、もし、教職員ＯＢの方の力が借りられるのであれば、サポーターになっていただけるのではないかなと思います。こういう事はだぶん市長でないと言えないと思います。今後の橋渡しか何かを考えていただけたらと思います。

＜並河市長＞
　教育長、今日の結果を受けて内部でもレビュー会をやったうえで、校長先生、市ＰＴＡ、教職員ＯＢとそれぞれ意見交換会を持ちましょう。
　しっかり今日の結果を踏まえて、どういうように現場の皆さんとどこを重点項目としてお話をしていったのかという事を、次の会までに実際に我々が教育と行政の担当のところでやらせていただいて、実際にこういう点についてやっていこうという事で保護者、市ＰＴＡ、校園長の皆さんそして教職員ＯＢの方とは、こういう会話でしたときっちりとお返しをするなかで、来年度の取組みについて引き続きご意見を伺うという場でないと、今日相当議題をせっかく絞り込んだにもかかわらず、次に活きてきませんので、次の予定はいつですか。

＜事務局　三喜田＞
　例年でしたら 7 月です。

＜並河市長＞

それでしたらその時にはまとまっていないといけませんし、実際に取り組んでいく、どういうように進んでいくのかという事を一定の報告をしないといけない。

今日の事を踏まえて施政方針の現場への伝達の方法等を内部できっちり整理をしていきましょう。

＜事務局　三喜田＞

今日ご意見をいただいたことを踏まえまして、次回一定の答えをお持ちしてご議論いただきたいと思います。長時間ありがとうございました。

以上